

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成27年10月～12月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成28年 1 月

宮 城 県 商 工 会 連 合 会

中小企業景況調査報告書

平成 27 年 10 月～12 月期

[調 査 要 領]

1. 調 査 対 象

- (1) 対 象 地 区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、くろかわ、加美
遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 1 5 0 企業
- (3) 回答企業数 1 4 8 企業

2. 調査対象期間

平成 27 年 10 月～12 月期を対象として、調査時点は平成 27 年 11 月 15 日とした。

3. 調 査 方 法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 3
建 設 業	2 5
小 売 業	4 4
サービス業	4 6
合 計	1 4 8

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 27 年 10 月～12 月期)の調査において、産業全体の業況D I (前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より 0.7 ポイントと若干の改善で△ 31.0 (前期△31.7) となった。産業別にみると、製造業は△15.6 (前期△31.2) と 15.6 ポイント改善、建設業が△4.0 (前期△4.0) と横ばい、小売業では△51.1 (前期△56.1) と 5.0 ポイント改善、サービス業では△37.8 (前期△25.0) と△12.8 ポイントの悪化であった。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額) D I では、全体として今期は前期(H27 年 7 月～9 月期)に比べて悪化した。産業別にみると、製造業は △33.4 (前期△15.6)で△17.8 ポイント悪化、建設業は△8.0 (前期△16.0)で 8.0 ポイント改善したが、小売業で△61.4 (前期△48.8)と△12.6 ポイント悪化、サービス業でも△41.3 (前期△33.4)と△7.9 ポイント悪化した。

② 採算の状況

採算D Iについては、全体として今期は前期に比べてほぼ横ばいであった。産業別にみると製造業で△12.9 (前期△28.1)と 15.2 ポイント改善、建設業は△20.0 (前期△16.0)で△4.0 ポイント悪化、小売業は△47.8 (前期△57.8)で 10.0 ポイント改善、サービス業では△44.4 (前期△24.4)と△20.0 ポイント悪化した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業では 23.3%で前期比 7.7 ポイント増加、建設業では 20.0%で前期比 12.0 ポイント増加、小売業では 2.4%と前期比△6.7 ポイント減少、サービス業では 9.3%で前期比△1.8 ポイント減少した。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売 上 額（完成工事額）

H27年12月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期(9月調査)と比較して製造業が横ばいの0、非製造業は2ポイント改善のプラス5だった。先行きはいずれも悪化を見込んでいる」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では建設業で改善したが、製造業、小売業、サービス業ではいずれも悪化となった。

今期の宮城の全国、東北との売上額D I比較では、製造業で全国、東北以下、建設業で全国、東北以上、小売業・サービス業では全国、東北以下であった。

表－1 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

区 分 業 種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 11.8	△ 13.8	△ 14.2	△ 23.1	△ 15.6	△ 33.4
建 設 業	△ 16.4	△ 11.7	△ 16.0	△ 17.7	△ 16.0	△ 8.0
小 売 業	△ 31.0	△ 35.4	△ 33.1	△ 46.0	△ 48.8	△ 61.4
サービス業	△ 19.9	△ 20.6	△ 28.2	△ 33.4	△ 33.4	△ 41.3

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では製造業、小売業で改善したが、建設業、サービス業では悪化した。今期の宮城の全国、東北との採算D I比較では、宮城は製造業で全国、東北を上回る一方、建設業では全国以下、東北とほぼ同じで、小売業とサービス業では全国、東北以下であった。

表－2 採算の状況 (前年同期比・D I)

区 分 業 種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 19.5	△ 19.2	△ 25.9	△ 25.3	△ 28.1	△ 12.9
建 設 業	△ 24.0	△ 18.2	△ 21.1	△ 19.5	△ 16.0	△ 20.0
小 売 業	△ 33.8	△ 33.1	△ 42.4	△ 38.6	△ 57.8	△ 47.8
サービス業	△ 25.2	△ 24.7	△ 31.5	△ 36.1	△ 24.4	△ 44.4

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（28年1月～3月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業で17.3ポイント改善、建設業で△17.0ポイント悪化、小売業で5.7ポイント改善、サービス業で10.2ポイントの改善見通しとなった。採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で△10.4ポイントの悪化、建設業で8.0ポイントの改善、小売業で2.3ポイントの改善、サービス業では6.6ポイントの改善見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では、売上は全国の若干の悪化見通しに対し宮城は改善方向の見通し、採算では逆に全国の若干の改善見通しに対し宮城は悪化見通しとなった。建設業では、宮城の売上は全国を上回る悪化見通し、採算では全国の若干の改善見通しに対し宮城は改善見通しとなった。小売業では、全国が売上、採算とも若干の改善見通しに対し宮城は共に改善見通しとなった。サービス業では、売上は全国が若干の悪化に対し宮城は改善見通し、採算では全国、宮城共に改善見通しとなった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況と見通し (前年同期比・D I)

区 分 業 種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 13.8	△ 14.3	△ 33.4	△ 16.1
建 設 業	△ 11.7	△ 17.5	△ 8.0	△ 25.0
小 売 業	△ 35.4	△ 34.3	△ 61.4	△ 55.7
サービス業	△ 20.6	△ 21.3	△ 41.3	△ 31.1

表－4 採算の状況と見通し (前年同期比・D I)

区 分 業 種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 19.2	△ 18.5	△ 12.9	△ 23.3
建 設 業	△ 18.2	△ 17.6	△ 20.0	△ 12.0
小 売 業	△ 33.1	△ 31.7	△ 47.8	△ 45.5
サービス業	△ 24.7	△ 22.7	△ 44.4	△ 37.8

2. 県下産業別の景況

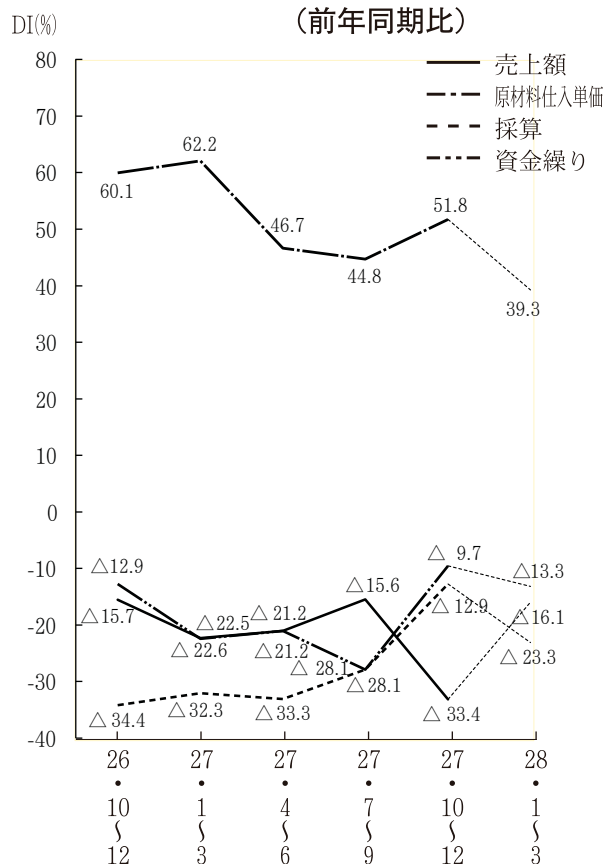
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△33.4（前期△15.6）となり△17.8ポイント前期より悪化し、採算D Iは今期△12.9（前期△28.1）で15.2ポイントの改善、資金繰りD Iも今期△9.7（前期△28.1）で18.4ポイントの改善となった。

原材料仕入単価は今期 51.8（前期 44.8）と7.0ポイント上昇し、今期は上昇基調に転じている。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



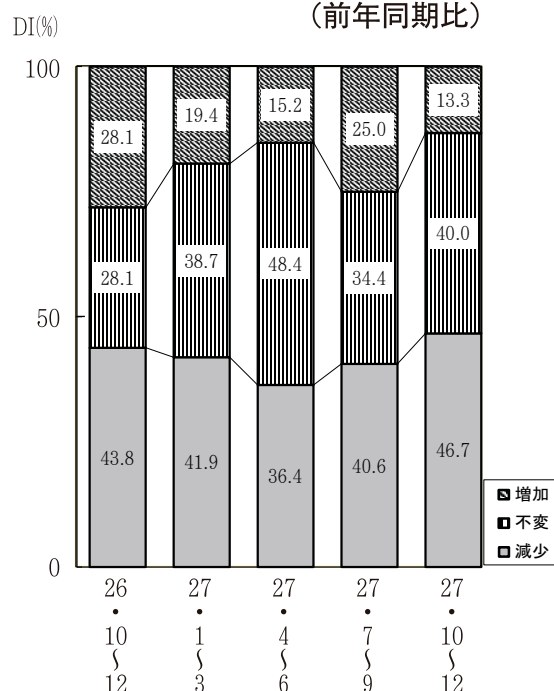
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加」と回答した企業は、全体の13.3%（前期25.0%）と△11.7ポイント減少し、「減少」と回答した企業は46.7%（前期40.6%）と6.1ポイント増加した。

結果として売上（加工）額D Iは△33.4（前期△15.6）となり前期比△17.8ポイント悪化した。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

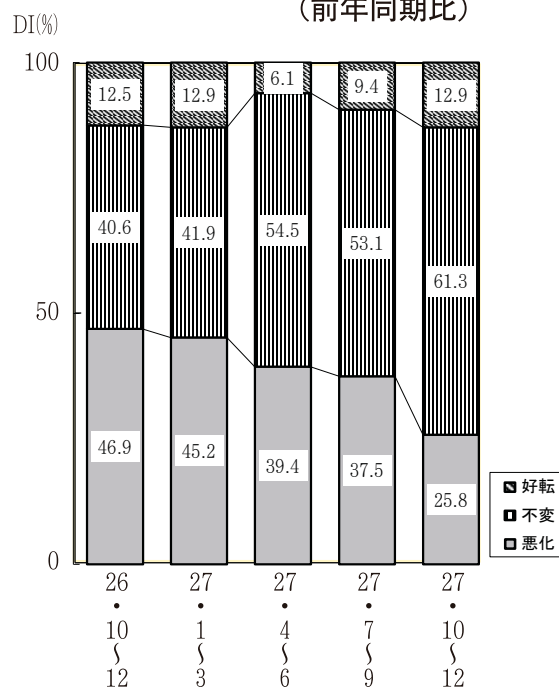


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 12.9% (前期 9.4%) で 3.5 ポイント増加し、「悪化」と回答した企業は 25.8% (前期 37.5%) で△11.7 ポイント減少した。

その結果、採算 D I は△12.9 (前期△28.1) で前期比 15.2 ポイント改善した。

図 1 - 3 採算の状況
(前年同期比)



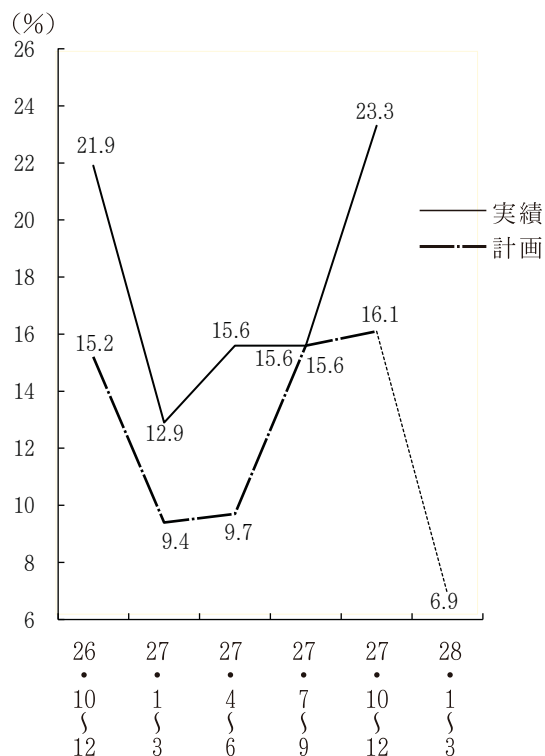
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、全体の 23.3% (前期 15.6%) で前期と比べ 7.7 ポイント増加した。

その設備内容は、生産設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 6.9% で、その設備内容は生産設備、その他となっている。

図 1 - 4 設備投資の状況

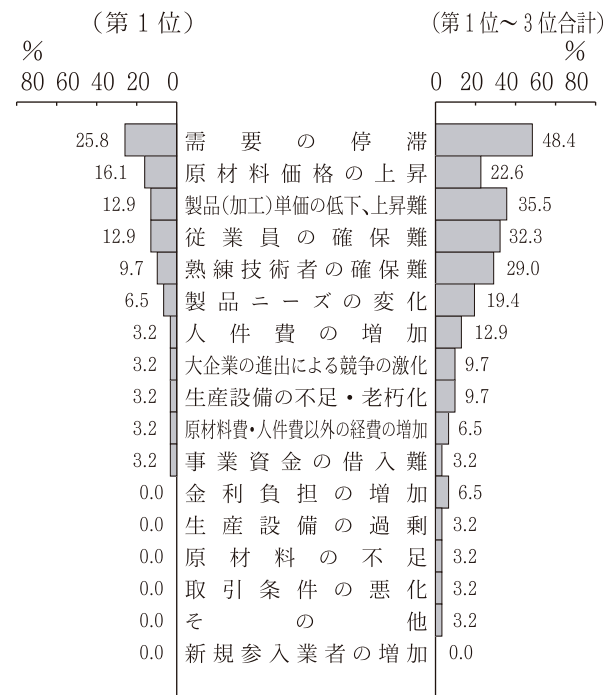


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「需要の停滞」の25.8%で、次いで「原材料価格の上昇」が16.1%、「製品（加工）単価の低下、上昇難」、
「従業員の確保難」が12.9%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では「需要の停滞」が最上位で48.4%（複数回答計、以下同じ）、次いで「製品（加工）単価の低下、上昇難」が35.5%、「従業員の確保難」が32.3%と続いた。

図1-5 経営上の問題点



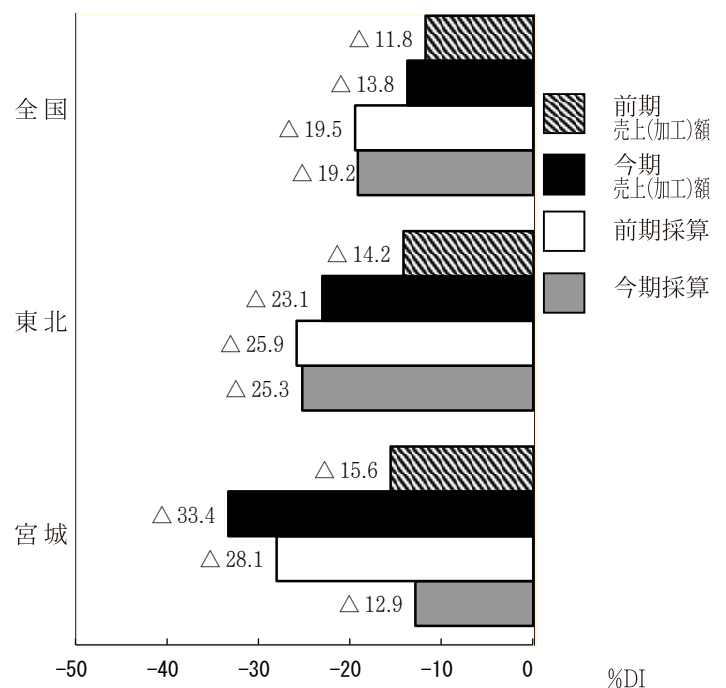
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上（加工）額D Iでは全区分で悪化し、その悪化度は宮城、東北、全国の順であった。

採算D Iの比較では、全区分で改善し、その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業者からは「今後は人の確保に重点を置き、良い人材を採用できるように努めたい」（電子機器部品業）や、「仕事量が増加するも計画人員の確保が難しい状況」（自動車部品等製造業）とのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）



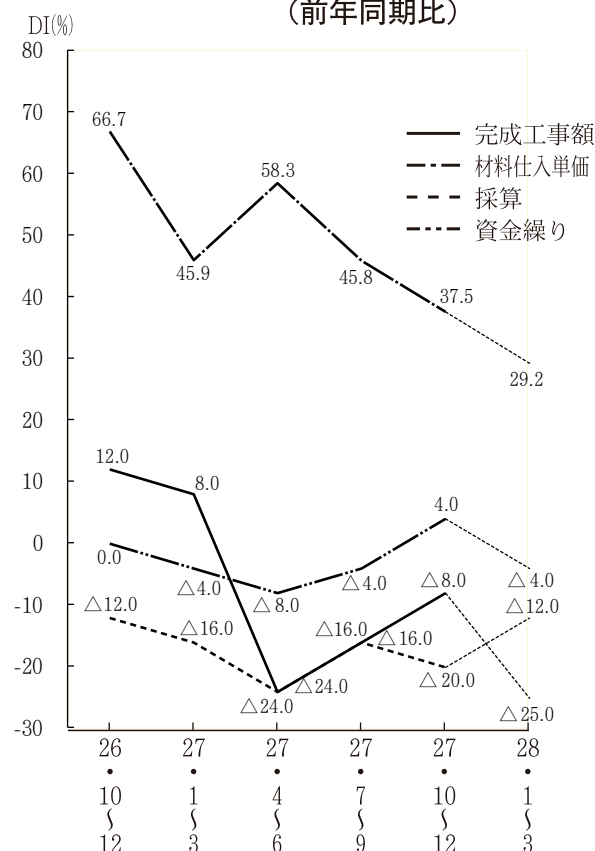
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△8.0（前期△16.0）と前期より8.0ポイント改善、採算D Iは今期△20.0（前期△16.0）で△4.0ポイント悪化、資金繰りD Iは今期4.0（前期△4.0）と8.0ポイント改善した。

材料仕入単価D Iは今期37.5（前期45.8）と前期より△8.3ポイント下落、改善した。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



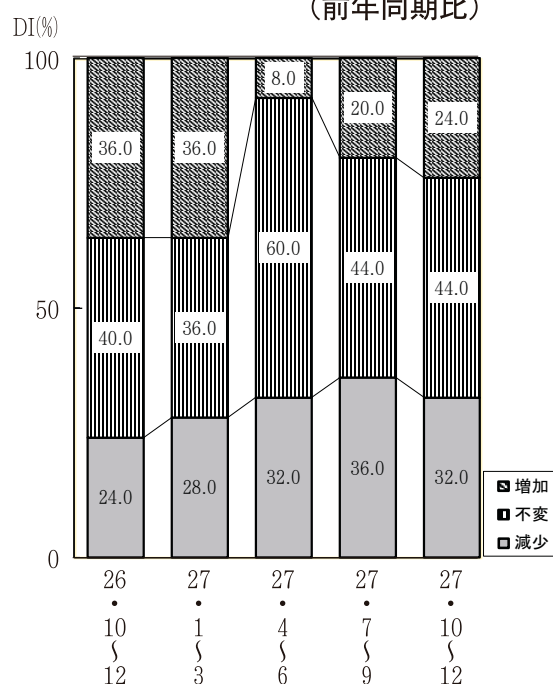
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の24.0%（前期20.0%）で4.0ポイント増加、「減少」と回答した企業は32.0%（前期36.0%）と△4.0ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△8.0（前期△16.0）と8.0ポイント前期より改善した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

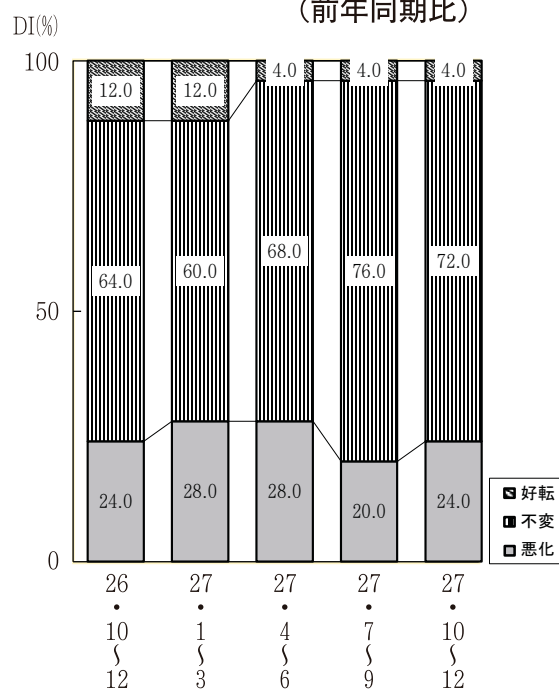


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 4.0% (前期 4.0%) で横ばい、「悪化」と回答した企業は全体の 24.0% (前期 20.0%) で 4.0 ポイント増加した。

その結果、採算 D I は△20.0 (前期△16.0) で前期より△4.0 ポイント悪化した。

図 2 - 3 採算の状況
(前年同期比)



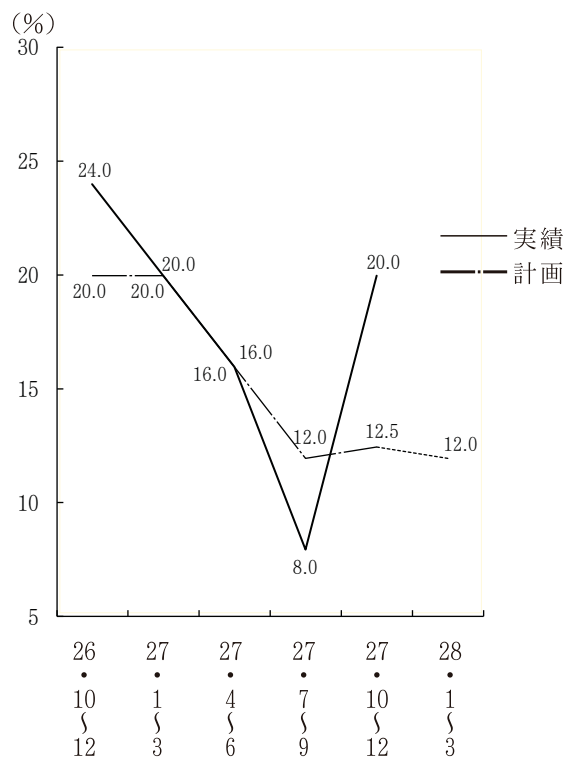
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、全体の 20.0% (前期 8.0%) で前期より 12.0 ポイント増加した。

その設備内容は土地、建設機械、車両・運搬具、OA機器、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の 12.0% で、その設備内容は建物、建設機械、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、福利厚生施設となっている。

図 2 - 4 設備投資の状況

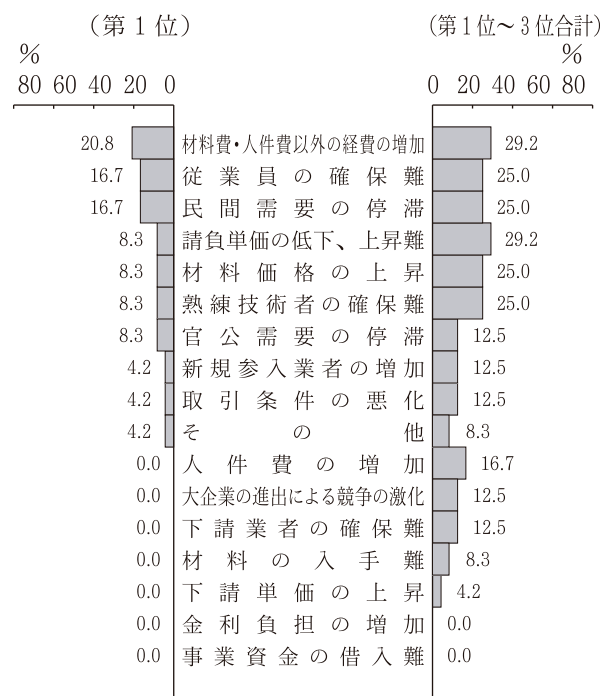


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「材料費・人件費以外の経費の増加」の20.8%で、「従業員の確保難」と「民間需要の停滞」が同率16.7%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、最上位が「材料費・人件費以外の経費の増加」と「請負単価の低下、上昇難」で29.2%(複数回答計、以下同じ)、次いで「従業員の確保難」、「民間需要の停滞」、「材料価格の上昇」、「熟練技術者の確保難」が同率25.0%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



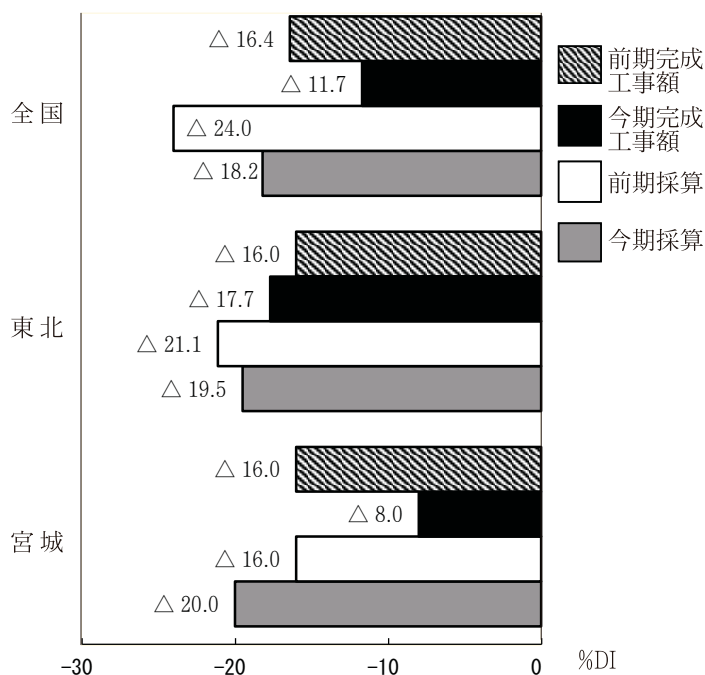
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では売上額D Iは、全国と宮城で改善、東北が悪化となった。改善度は宮城、全国の順であった。

採算D Iでは、全国、東北で改善、宮城で悪化となった。改善度は全国、東北の順であった。

本県回答事業所からは「住宅工事受注について若干下降するのではないかと考える」とのコメントの一方、「引き合いが増加し注文が増えている」とのコメントも寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較(前年同期比)



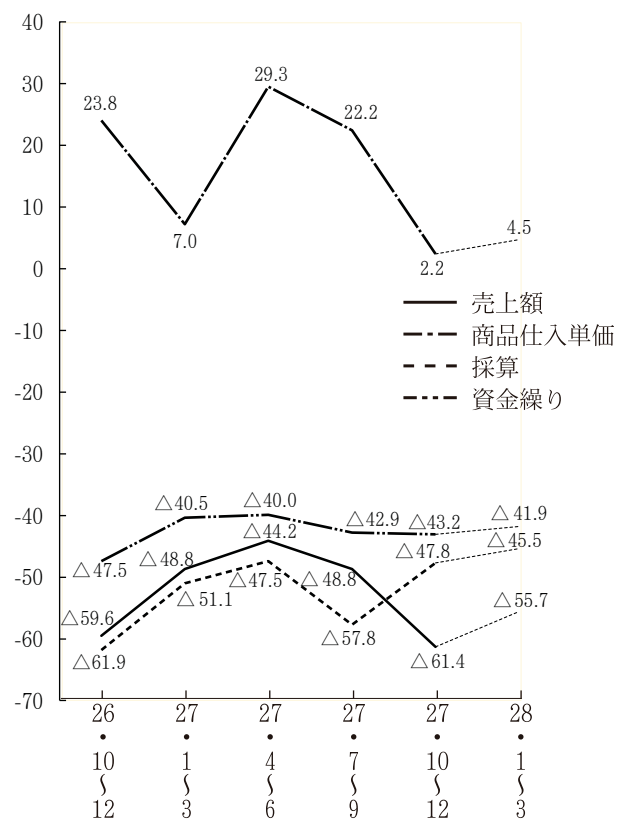
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△61.4（前期△48.8）と△12.6ポイント悪化し、採算D Iは今期△47.8（前期△57.8）で10.0ポイント改善、資金繰りD Iは今期△43.2（前期△42.9）でほぼ横ばいであった。

商品仕入単価D Iは今期2.2（前期22.2）となり△20.0ポイント下落、改善した。

図3－1 主要景況項目の推移
（前年同期比）



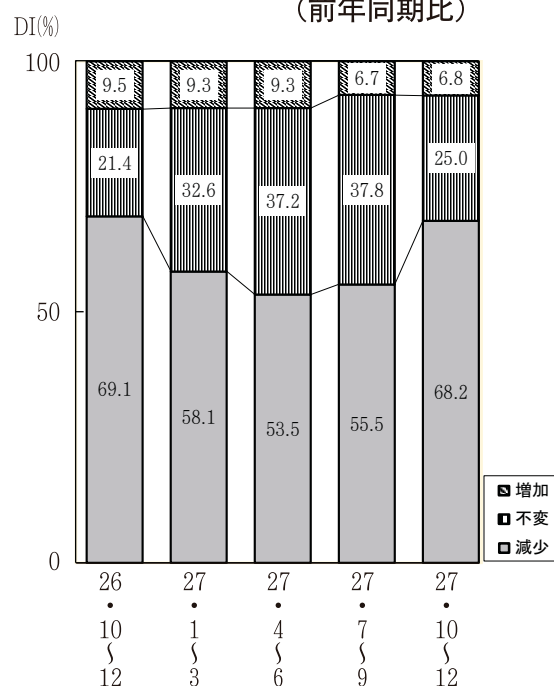
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の6.8%（前期6.7%）と0.1ポイント増加、「減少」の回答は、今期は全体の68.2%（前期55.5%）で12.7ポイント増加した。

その結果、売上額D Iは今期△61.4（前期△48.8）と△12.6ポイント前期より悪化した。

図3－2 売上額の状況
（前年同期比）

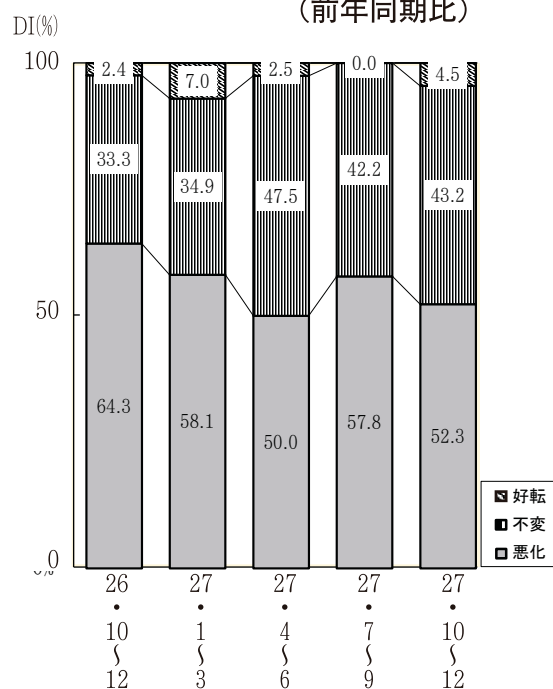


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の 4.5%（前期 0.0%）と 4.5 ポイント増加、「悪化」の回答は、今期は全体の 52.3%（前期 57.8%）で△5.5 ポイント減少した。

その結果、採算 D I は、今期△47.8（前期 △57.8）で前期より 10.0 ポイント改善した。

図 3 - 3 採算の状況
(前年同期比)



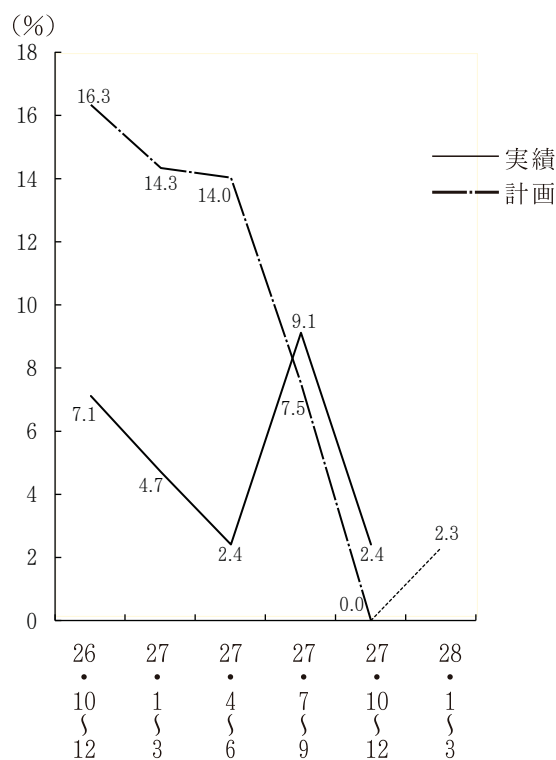
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の 2.4%（前期 9.1%）で、前期より△6.7 ポイント減少した。

その設備内容はOA機器であった。

来期に設備計画している企業は全体の 2.3%で、その設備内容は車両・運搬具となっている。

図 3 - 4 設備投資の状況

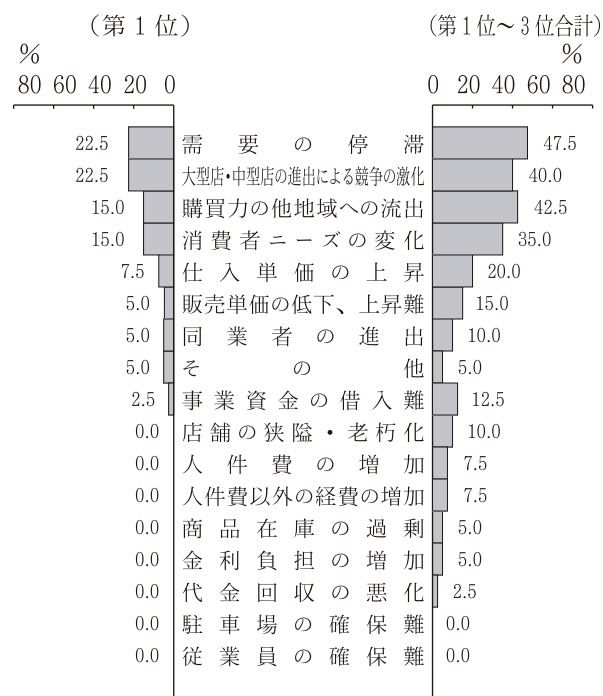


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」と「大型店・中型店の進出による競争の激化」が同率で22.5%、「購買力の他地域への流出」と「消費者ニーズの変化」が15.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(47.5%(複数回答合計、以下同じ))が最上位で、「購買力の他地域への流出」が42.5%、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が40.0%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



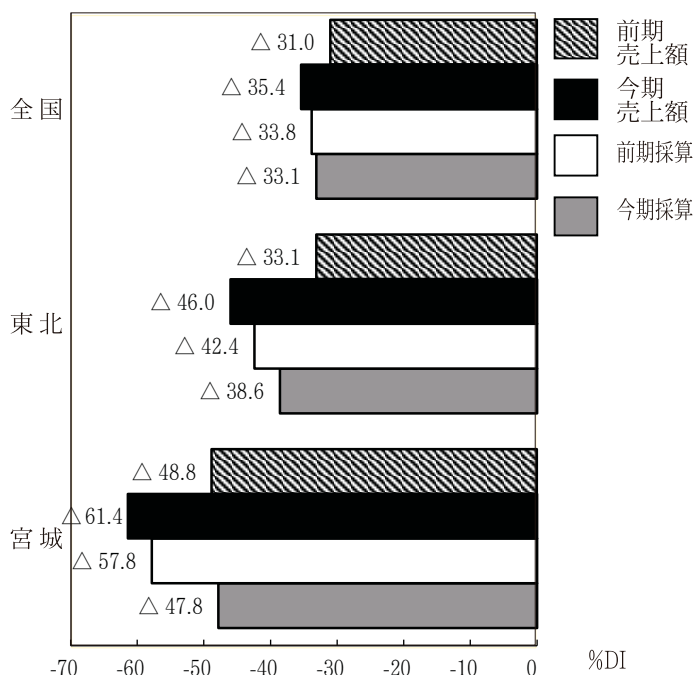
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では、売上DIは全国、東北、宮城で悪化となった。悪化度は東北、宮城、全国の順であった。

採算DIでは全国でほぼ横ばい、東北、宮城で改善となった。改善度は宮城、東北の順であった。

本県回答事業所から「固定客が定着してきた感じで、客単価は上がっている。客数増加の方法を考案中」(花・植木販売)、「量販店等の増加により売り上げに影響が出ている」(酒類販売)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



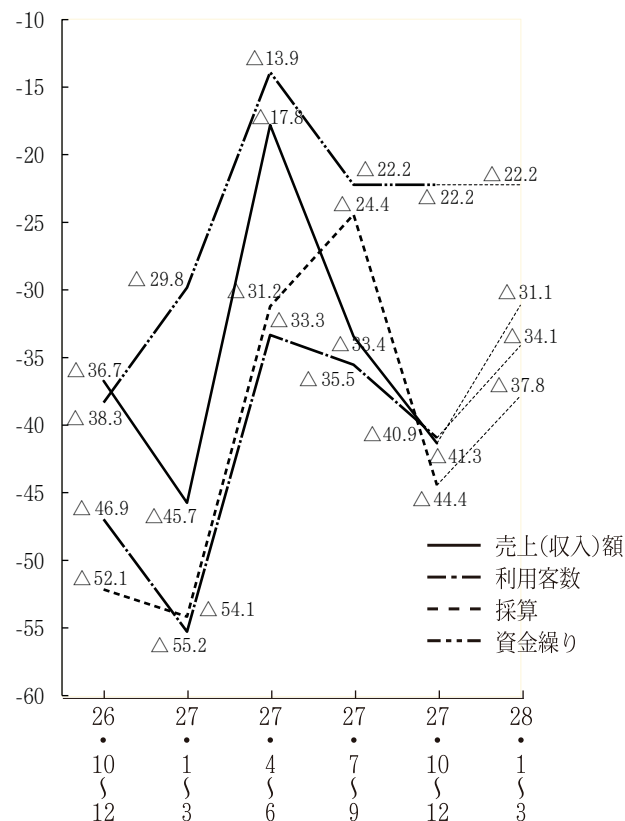
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上(収入)額D Iは今期△41.3(前期△33.4)で△7.9ポイント悪化、採算D Iは今期△44.4(前期△24.4)で△20.0ポイント悪化、資金繰りD Iは今期△22.2(前期△22.2)と横ばいであった。

利用客数D Iは今期△40.9(前期△35.5)で△5.4ポイント低下した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



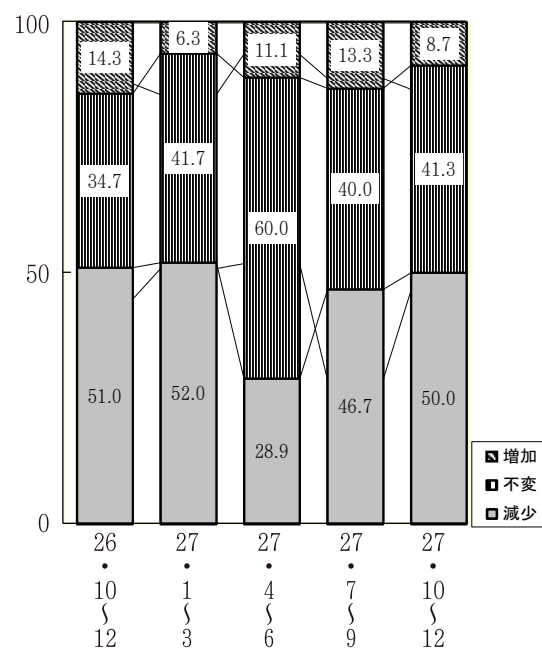
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(収入)額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の8.7%(前期13.3%)で△4.6ポイント減少、「減少」の回答は今期50.0%(前期46.7%)で3.3ポイント増加した。

その結果、売上(収入)額D Iは今期△41.3(前期△33.4)で前期より△7.9ポイント悪化した。

図4-2 売上(収入)額の状況
(前年同期比)

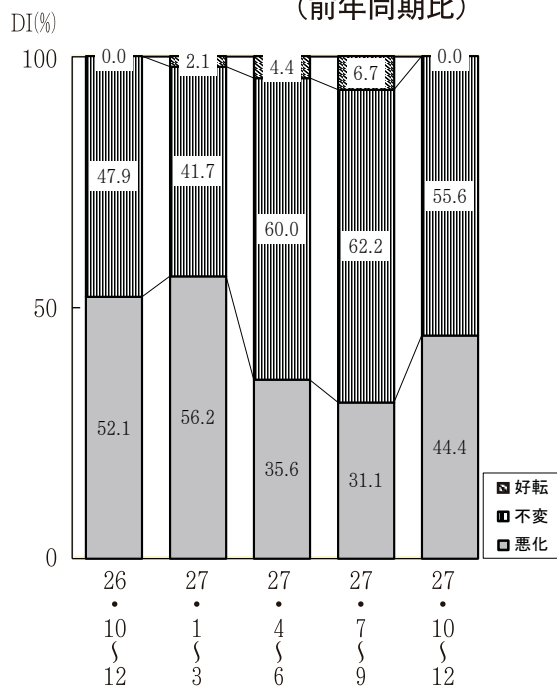


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の0.0%（前期6.7%）で前期比△6.7ポイント減少、「悪化」と回答した企業は今期44.4%（前期31.1%）と13.3ポイント増加した。

その結果、採算DIは今期△44.4（前期△24.4）で前期より△20.0ポイント悪化した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



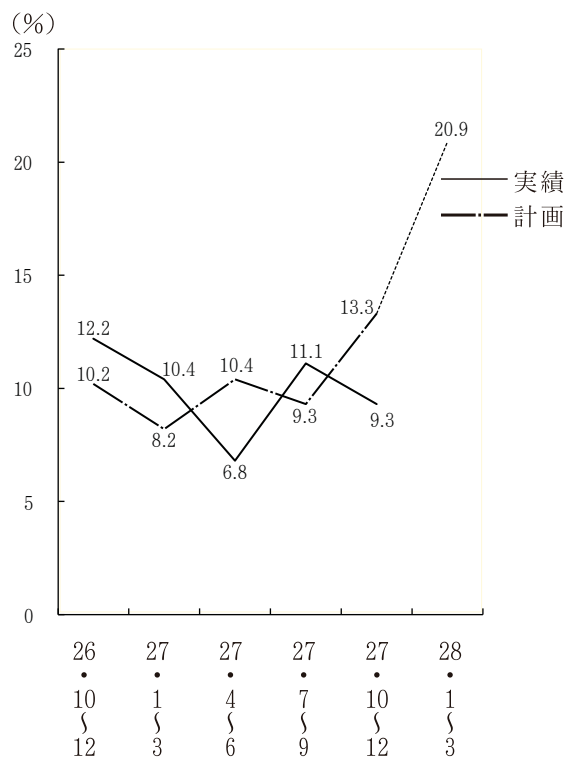
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は、今期は全体の9.3%（前期11.1%）で前期より△1.8ポイント減少した。

その設備内容は、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、福利厚生施設であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の20.9%であり、その内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、福利厚生施設、その他となっている。

図4-4 設備投資の状況

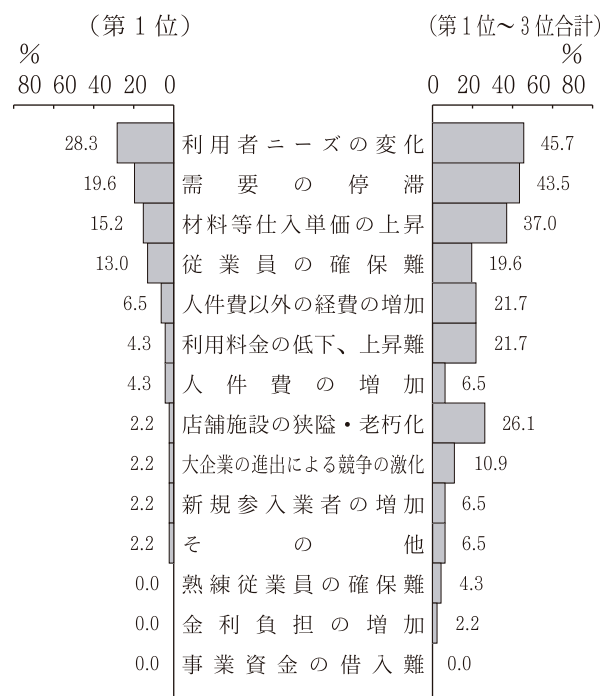


(d) 経営上の問題点

重要度第 1 位は、「利用者ニーズの変化」(28.3%)で、次いで「需要の停滞」(19.6%)、「材料等仕入単価の上昇」(15.2%)が続いた。

重要度第 1 位から第 3 位合計でも、「利用者ニーズの変化」(45.7% (複数回答合計、以下同じ)) が最上位で、「需要の停滞」が 43.5%、「材料等仕入単価の上昇」が 37.0%で続いた。

図 4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期と今期の比較において、売上DIは、全国で若干の悪化、東北、宮城で悪化となった。悪化度は宮城、東北、全国の順であった。

採算DIは全国で若干の改善、東北、宮城で悪化となった。悪化度は宮城、東北の順であった。

本県回答事業所からは「近隣でのイベント事の増加で週末の稼働が増加。公共事業も増加しているので関連企業の宿泊にも期待」(旅館業)とのコメントや、「従業員の確保が大変難しい状況。そんな状況の中で美容師の人件費もどんどん高くなっている」(美容業)とのコメントが寄せられた。

図 4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

